



平和の音

雨野小夜美

あめのこやみ

私は子どもたちの声が  
嫌いでした  
突然叫んだり  
うるさいからです  
でも子どもたちがいなければ  
私たちに未来はありません  
何も聞こえてないと  
心をだましました

たぶん今日は花火か何かでしょうか  
夜遅くまで子どもたちの  
笑い声がします  
バニラのアイスクリームを食べて  
また心をだましました

両側のほっぺを押さえてみるのです

私もいつかは子どもでした

いつの間にか昔の自分を

先生を困らせた自分を

忘れてしまおうとしている

汚れた大人になりました

田舎は静かで

夜がふけると虫の音がします

なぜ私は虫の声は好きなのに

子どもの声が嫌いなんだろう？

傷ついた左脳でペンを取り

読めない何かを書いてまるめます

そのときです  
サイレンが鳴り響いたのは  
こんな田舎つぶれてしまうほど  
音に私の心はきしみました  
それはどンドン  
近づいてくるのです  
カーテンを開けてみると  
それは隣の家にとまりました  
小さな姿が  
運ばれてきます  
ただ心は揺れ  
誠実な叫び声をあげました

子どもたちの声をきけば  
平和なのは今だけと思うのです  
80年生きられるとしたって  
あなたと笑っていただける日数は  
数えるくらいかと

あれから何年

子どもたちが笑っています

もう夜遅くです

いつまでもいつまでも

その奇声やらあいさつに包まれていました

結果が悲しくても

平和の音だからです

半分は本当で

もう半分も本当です

あなたの声をきいていたいのです

それが平和の音だからです

## 平和の音

<http://p.booklog.jp/book/116483>

著者：雨野 小夜美

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tinycolor/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/116483>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社トゥ・ディファクト